（４）②様式第４号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず Ａ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 **実施機関名：**岩手大学大学院教育学研究科（教職大学院） **連携機関名：**岩手県教育委員会
	テーマ：**新学習指導要領の学習評価を考える** 新学習指導要領が実施され、これまでのコンテンツベースからコンピテンシーベースとなり、学校現場では、資質・能力の形成を目指した授業づくりが期待されるようになった。 本研修は、学び続ける教員を支援するために、多様な立場から教育関係者が集い、新学習指導要領で期待される学力形成の方法と授業づくり、指導と評価の一体化等について理解を深めるための議論ができる場を提供することを目的としている。
	研修等名：**【NITS・岩手大学教職大学院コラボ研修】** 「いわて教育のワールドカフェ：新学習指導要領の学習評価を考える」
	開催日時：令和３年 11 月３日（水・祝日）９時 30 分～12 時 開催場所：岩手大学教育学部北桐ホール（岩手県盛岡市上田 3-18-33） 参加人数（総数）と参加者の属性：（28 名） 大学院教員４名、大学院生２名、教員 10 名、岩手県教育委員会５名、 岩手県立総合教育センター６名、教育委員会関係者１名

内容：

１　話題提供：「新学習指導要領の学習評価を考える」

・講師、話題提供者　京都大学大学院教育学研究科　准教授　石井 英真　氏
・進行、ファシリテーター　岩手大学　准教授　清水　将　氏

講師の石井先生はオンラインで参加。本日のテーマについて、次の観点から話題提供。

- 評価、評定、見取りの関係
- 教師にとって「見える」ということの意味
- 学習評価改革のポイント
- 観点別評価と指導と評価の一体化の意味・課題
- 評価観の転換の必要性
- 新しい学力・能力が協調される背景
- 観点別評価をどう運用するか
- 目標を明確化することの意味

２　ディスカッション

・進行、ファシリテーター　岩手大学　准教授　清水　将　氏

- ワールドカフェ方式で実施。話題提供の内容に対して、参加者が直接石井先生と質疑応答したり、グループごとに異なる話題についてディスカッションしたりするなど、比較的自由な形式での意見交換を行った。
- とりわけ、学校の教員からは、観点「主体的に学習に取り組む態度」の捉え方、見取り・評価の運用の実際、組織的な学習評価等についての疑問、悩みが出された。
- 個別の質問に対する石井先生からの具体的なアドバイスや、グループディスカッションでの協議を通して、参加者一人一人が今後の実践に向けたヒントを見つけられた時間となった。

成果：

○　事後アンケートの結果によると、全体について（総合評価）「大変よかった」が 71%、「よかった」が 29%と、回答者全員から高評価を得ることができた。

○　自由記述の欄には、次のような感想が寄せられた。

- 久しぶりに教育について考えることができました。これまで悩んでいることを隠して評価してきましたが、今回のカフェで少しでもヒントをもらうことが出来ました。休日で参加しやすかったです。（教員）

・　子どもたちの力を評価できる舞台を作ることの大切さが改めて分かりました。外国語の授業は、必ず 1 番初めに子どもたちのゴールを想像しながら単元を構成します。何気なく行っていることではありますが、普段の授業でなおかつ他の教科でやっていたかと言われればそうではなかったと気付かされました。子どもたちの為に授業をできる教員になっていきたいです。（教員）
・　評価について、はっきりと見取りと評定との違いを説明していただいたおかげで、曖昧だった部分が明確となり、評価への理解が深まりました。
・　評価について、話題提供とグループ内での協議により学び直すとともに、より深めることが出来ました。何より、学校現場での評価に関する悩み等を直接聞くことができ、今後の研修事業に生かしていきたいと思います。（教育行政）
・　グループ協議で、行政と現場の方が組む形式になるともっと良かったと思いました。（教育行政）

アイディアや工夫したこと：

〇　大学、教育機関、学校関係者が参加し、相互交流が深まるような場を設定したこと。
〇　限られた時間でディスカッションが深まるように、ワールドカフェ方式で実施したこと。（一方で、この方式に不慣れなため、戸惑う参加者もいたこと。）
〇　理論と実践を行き来しながら今後の教育活動に考えられる機会とするために、話題提供からディスカッションという流れで会を運営したこと。

＜写真・図など＞

【会場全体の様子】

【石井先生への質問】

【グループディスカッションの様子】